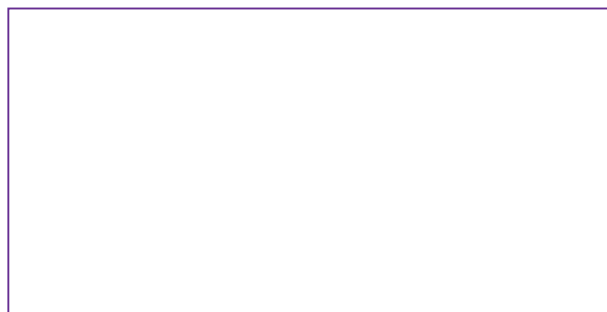
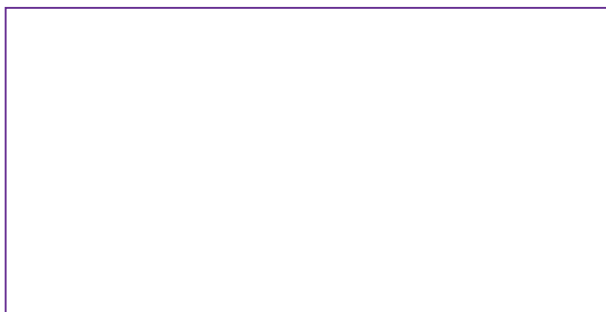


NAPAC トレンド情報 2018

カスタマイズ & アップグレードアイテム



制作／2018年3月

監修／一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会（NAPAC）



〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝ビル 11F-5

☎ 03-5437-6881 Fax 03-5437-6882

<http://www.napac.jp>

NAPAC トренд情報 2018

カスタマイズ & アップグレードアイテム

来店ユーザーのカーカスタマイズ・サポートに 役立つ、メーカー直伝の新製品 & 関連市場情報！

「NAPAC トренд情報」とは…

「NAPAC トренд情報 2018 ～カスタマイズ & アップグレードアイテム」は、国内主要スポーティングパーツ、並びにアルミホイールメーカーで構成する業界団体「一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会（NAPAC）」の会員社自らが、最新アイテムについて解説させて頂いた資料集です。

2018 年版では、今シーズンのカーカスタマイズ市場の主役となり得る、注目のアイテムが集まりました。

また情報提供会員社が捉えている、その製品の市場傾向についても情報提供致します。

デザイン、カラー、仕様はもとより、エンドユーザーの使い方や流行等の傾向を感じ取って頂き、カーグッズ販売店各位の売り場作りや来店ユーザー接客の参考にして頂ければ幸いです。

※本資料は NAPAC 会員社に情報提供を募り、協力会員のアイテムのみ掲載しています。

※掲載情報は 2018 年 3 月時点のものです。その後仕様変更等が発生している場合があります。



NAPAC トренд情報 2018

カスタマイズ & アップグレードアイテム

– Contents –

アイテム掲載ジャンルと会員社

01_ 足回りパーツ

阿部商会、キャロッセ、KYB エンジニアリング
アンドサービス、辰巳屋興業、ティン、
フォーバイフォーエンジニアリングサービス

02_ アルミホイール

エンケイ、オーゼットジャパン、共豊コーポ
レーション、クライメイト、ジャオス、
ジャパン三陽、タナベ、
TAN-EI SYA WHEEL SUPPLY、PIAA、
BBS ジャパン、ファブレスジャパン、
マルカサービス、横浜ゴム、レアマイスター、
レイズ、ワーク



03_ インテリア

ガレージ・ベリー、ブリッド、ワークスベル

04_ 車体剛性パーツ

オクヤマ

05_ エアロパーツ

トムス



06_ クーリングパーツ

ケミテック

07_ エキゾースト

東名パワード、トラスト、藤壺技研工業

08_ 駆動系パーツ

小倉クラッチ

09_ ブレーキパーツ

アクレ、エンドレスアドバンス、
シルクロード、ディクセル

10_ ライティング

アサヒライズ、コラント





Maker : (株) 阿部商会

クリック⇒ <http://abeshokai.jp/>

Model : **BILSTEIN B14**
車高調整サスペンションキット

製品解説

ホンダ S660 用ビルシュタイン B14 車高調整サスペンションキット（定価 260,000 円、税別）は、車高調整幅を -20mm に設定して、軽量ボディを十分に感じながら人と車が一体となってコーナーを若干のロールと共に軽快にクリアしていくハンドリングに仕上げました。

ビルシュタインが純正採用されている MUGENRA モデルより少しコンフォート方向なライドフィーリングを実現させました。

関連市場傾向

スポーツタイプの車のユーザーもミニバンやセダンと同じようにサスペンションの乗り心地を重視する方が増えてきています。

車高調整式サスペンションキットで、ローダウンしてスタイルアップした状態でもコンフォートな乗り心地をキープできている商品が好まれる傾向にあります。

《阿部商会談》

トレンド情報 2018
足回りパーツ



Maker : (株) キャロッセ

クリック⇒ <https://www.cusco.co.jp>

Model : **CUSCO SPORT TN_S / TN_R**

製品解説

スポーツ走行性能を最重視するユーザー向けとしてデビューした CUSCO SPORT シリーズに、減衰力 2WAY 独立調整モデル「TN_S / TN_R」が新登場！

新開発の「ツインニードルシステム」を採用し、伸側、圧側それぞれの減衰力を完全独立にて調整可能としました。多彩な走行ステージ、路面状況、使用タイヤ、ドライビングスタイル等に合せて好みのセットアップに仕上げる事が可能です。ストリートスポーツから 1/1000 秒を争う競技ユーザーまで、お薦めの車高調です。

関連市場傾向

車高調整サスペンションキット市場は、本気でタイムを求めるユーザーや競技ユーザーなど、更なるタイムアップを求め、よりハイスペックな機能が付いた製品を求めるユーザーも多く、特により細かいセットアップが可能な減衰力伸・圧独立調整モデルの関心が高まっています。

しかし、別タンク式の 3WAY モデルまでは価格的に手が出ないという声も多く、CUSCO では 1WAY プラスアルファの価格で購入可能な、別タンク無しタイプの 2WAY 機能付きモデルを開発致しました。
《キャロッセ談》

トレンド情報 2018 足回りパーツ



Maker : **KYB エンジニアリング
アンドサービス (株)**

クリック➡ www.kybclub.com

Model : **NEW SR SPECIAL**

製品解説

30 年以上の信頼と実績 「NEW SR SPECIAL」 “Reborn”

発売当初よりショックアブソーバ交換による「安心の走り」を目指してきましたが、時代とともにクルマ、タイヤの性能が向上し、ショックアブソーバの役割はますます高まり、最新の技術とチューニングレベルが要求されています。

クルマのキャラクターを重視し、更なる走りの喜びを創造するため、NEW SR SPECIAL は進化を続けます。

関連市場傾向

クルマの平均車齢、平均使用年数が伸びている中、安全快適な走りのため、ショックアブソーバへの注目が高まっております。

気に入ったクルマに長く乗る、そのためには気に入った状態のクルマにする必要があり、乗り味に大きく影響するショックアブソーバを交換すれば、新車時の走りに蘇ると言っても過言ではありません。

気に入ったクルマだけど乗り味に不満を感じるようになった方にオススメです。

《KYB エンジニアリングアンドサービス談》

トレンド情報 2018

足回りパーツ



Maker : **辰巳屋興業 (株)**

クリック➡ <http://www.racinggear.co.jp/>

Model : **Formula・X**
(フォーミュラ・イクス)

製品解説

目指したのは『サーキットにおける結果(タイム)の出るサスペンション。それが「Formula・X (フォーミュラ・イクス)」です。

妥協を許さない精密で繊細な「精度」を追求した専用設計のピストン／ボトムバルブを独自開発。超微低速域 (0.01 ~ 0.05 m/sec) と 0.3 ~ 0.6 m/sec といいた早いスピード域の両立しにくい相反する領域でしっかりとした減衰力を発揮します。

コーナーへの進入時にロールを極限まで抑え、キレ良く、安定した走りを実現しました。

関連市場傾向

近年、タイヤのグリップ特性が目覚ましく向上しておりタイムアップを狙う為に、低扁平かつよりワイドなタイヤを用いる傾向にあります。

それに伴い、最大限グリップを発揮するため、スプリングレートを高めに設定する傾向にあるようです。

また、路面のうねりなどをしなやかにいなし、イン・アウトのタイヤをうまく活かすサスペンションセッティングが求められてきています。

《辰巳屋興業談》

トレンド情報 2018

足回りパーツ



Maker : (株) テイン

クリック⇒ <http://www.tein.co.jp/>

Model : **FLEX AVS**

製品解説

TOYOTA や LEXUS の一部車種に純正採用されている AVS 機能を活かしたまま車高調を装着可能にした全長調整式車高調。

世界ラリーからフィードバックしたハイドロ・バンプ・ストッパーを搭載し、コンフォート性と操縦安定性の向上に成功。「リプレイスメントサービス」でショックアブソーバ部分のみ交換することで性能が回復。同時に、好みの減衰力仕様やストロークでの製作も可能。3 年または 6 万 km の製品保証付き。

関連市場傾向

TOYOTA や LEXUS の一部車種に純正採用されている AVS 機能は、サスペンションをアフターパーツに交換すると、その機能が失われてしまいます。

しかし、「FLEX AVS」では純正の AVS 機能を活かしたままローダウンが可能になりました。また、新設計の減衰力調整ニードル「AVS ニードル」を採用したことで、純正 AVS アクチュエータの作動角内で幅広い減衰力変化を実現しました。

※手動での減衰力調整はできません。

《テイン談》

トレンド情報 2018

足回りパーツ



Maker：(株) フォーバイフォーエンジニアリングサービス

クリック⇒ <http://www.4x4es.co.jp>

Model：カントリーサスペンション
キット GRJ79K 用

製品解説

限定で再販されたランドクルーザー GRJ79K 専用カントリーサスペンションキットは、フロントコイルは不等ピッチ、リアリーフはセンターフラット加工や全バネ間サイレンサー、ショックアブソーバーには 14 段ダイヤル調整及びハーモフレック機能内蔵等多くのギミックを搭載。

乗心地を飛躍的に改善しつつ、本来の目的であるオフロード性能の向上を目指した作りになっています。製品は車検対応です。

関連市場傾向

最近のユーザーは一部特化した性能追求より、オールラウンド的な使い方を求める人が多いみたいです。

その要望に応えるために新しい技術を積極的に採用しています。板バネなんてずっと進化して無いと思っている方は多いと思いますが、ランクル 79 用板バネは、センターフラット等を採用し、ショックも新技術を取入れ、よりユーザーの要望に応じています。

そして当然ですが、改造申請による車検所得も可能なのが必須の仕様です。

《フォーバイフォーエンジニアリングサービス談》

トレンド情報 2018

足回りパーツ



Maker : **エンケイ (株)**

クリック⇒ <http://www.enkei.co.jp>

Model : **PerformanceLine
PFM1**

製品解説

デザイン&機能性をハイレベルで調和。オトナのスポーティーメッシュホイール「PFM1」へ今回新たに「Misty Blue (ミスティブルー)」色を追加設定しました (2018 年 5 月発売予定)

メタリックフレークの調合に対し検討を重ね、原色の強さを押さえつつ味わい深く魅惑的なブルー色を実現しています。

足元を引き締めつつ、ボディカラーとのマッチングを最大限に引き出すことの出来る、ハイセンスなブルーメタリックです。

関連市場傾向

昨今、自動車メーカー純正ホイールにおいては切削仕様・ダークカラーが多く、一般ユーザーの嗜好においてもシルバーのようなはっきりとしたホイールカラーよりも、ダークカラーを好む傾向に変化してきています。

また、「足元を引き締める」、「ダストが目立たない」などダークカラーについての良い印象を持っているユーザーが多く見受けられます。

《エンケイ談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : オーゼットジャパン (株)

クリック➡ www.oz-japan.com

Model : HyperXT-HLT

製品解説

走りに拘った SUV 向けパフォーマンスホイールの誕生です。スポーツホイールであるハイパーGT-HLT の DNA を継承し、世界各国で定められた過酷な強度規格 (BMW X5 やベンツ GLS などの高軸重車にも対応) をクリアしながらの軽量化、剛性はもちろん空力特性にも考慮された傑作となりました。

美しく力強いフォルムを最大限に生かした 10 スポークデザインは貴方の愛車をより魅力的にさせる演出をします。

関連市場傾向

アルミホイール市場は、どのクラスも SUV が席巻するようになるとコンパクトクラスは大口径へ、ラグジュアリークラスはインチダウンへと傾向が分かれてきました。

インチダウンはスノーの需要もありますが、他の国とは違う日本独特の傾向です。大きい耐軸重が必要な車種において、付けば何でもいいと耐荷重を無視するような傾向も見受けられますが、安全に関わることなので販売や購入にはご注意ください。

《オーゼットジャパン談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) 共豊コーポレーション

クリック⇒ <http://www.kyoho-corp.jp/>

Model : シュタイナー SF-G

製品解説

「シュタイナー SF-G」は“純正を超える”とのアフターホイール永遠の命題に、純正にほぼ採用例のない SBC/ポリッシュという色の新境地で挑んだ意欲作。

5 穴モデルは 10 本スポーク、4 穴モデルは 8 本スポークとそれぞれをバランス重視で設計しました。

より立体感を強調するセンター部の特徴あるラウンド形状やリムフランジポリッシュ部をスポークサイド毎に分断し、より大きく・長く視覚効果をもたらす形状を採用。トレンドと独創性を融合するモデルとなっています。

関連市場傾向

アルミホイール市場は、デザイン面ではコンケイブの流行は根強く続いています。

オートサロン会場や各社新製品ではスポーツ系は 5 本スポーク、ドレスアップ系では Y 字メッシュとシンプルなデザインが多く、リバイバルデザインも目立ちましたが、弊社では華美なチャレンジネチャーシリーズや、シュタイナーシリーズの評判が良く、業界のトレンドとユーザーのトレンドの乖離も感じます。

《共豊コーポレーション談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : **(株) クライメイト**

クリック➡ <http://suwwheel.com>

Model : **Forte (フォルテ)**

製品解説

「Forte (フォルテ)」は 4WD 車向けのホイールとして開発したモデルです。

Y 字スポークからセンター部へのコンケイブを特徴とするデザインを採用し、力強さとラグジュアリー感を兼ね備えた造形を実現しました。

サイズは 16-5.5 ～ 22-9.5、カラーはスーパークローム（写真）とブラッククリアの 2 色となっています。

関連市場傾向

アルミホイールに限らず、日本製品が海外で注目されていますが、ホイールの大径化が進みコンケイブデザインを配した製品が多くなってきた印象です。

また、ホイール色の塗分けができるなどユーザーのオリジナルホイールというプレミアム感も強くなっています。

《クライメイト談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) ジャオス

クリック➡ www.jaos.co.jp

Model : **ASTELLA CM-04**

製品解説

エンケイと共同開発したハイエース&キャラバン用 17 インチホイール「ASTELLA CM-04」を発売しました。

5 スpokeディスクをベースに、レースシーンで使用されている ENKEI MotorSportE の「ES-131」のエアサーキュレーションホールをモチーフにしたデザインを取り入れました。

裏面にアンダーカットを加えることで軽量化にも気を配ったトランスポーターのための新しいアルミホイールです。

関連市場傾向

ハイエースのカスタマイズというと、誌面などではローダウン + 大径ホイールというスタイルが定番でしたが、最近ではリフトアップ傾向のカスタマイズが注目を浴びています。

もともと「目立つのは大径だが実際に動いているのは 15 ~ 16 インチ」と言われていたハイエース用ホイールですが、ハイトの高いタイヤが似合うリフトアップカスタマイズの流行によって、よりその傾向が強まっているようです。

《ジャオス談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) ジャパン三陽

クリック⇒ <http://www.japansanyo.co.jp/>

Model : Warwic Deeprand

製品解説

「Warwic Deeprand」は、圧倒的な深さを誇るニューモデルです。

リム部分を垂直に落とし込んだディープリムメッシュデザイン。そして深みあるハイパーブラックカラーを採用しました。リム部にはミラーカットという特殊加工工程を施し更なる高級感ある輝きを魅せます。

スポークに段差をつけることにより立体感をアップさせています。さらにディープ感があるリムデザインで幅広い車種にベストマッチします。圧倒的なリムが演出するフォルムはあなたの愛車の足元を大胆に際立たせます。

関連市場傾向

ここ最近、アルミホイール分野はデザインもおしゃれになってきており、カラーもアフターアルミホイール業界においては、常に上を行くデザインやカラー、またワンポイントとして工夫を凝らし、進化していかなければなりません。

今はアルミホイールを“着ける時代”から“着け変える時代”になってきているため、当社では常に最先端を目指して開発に取り組んでいます。

《ジャパン三陽談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) タナベ

クリック⇒ <http://www.rd-tanabe.com>

Model : **SSR MINERVA (S)**
エスエスアルミネルバ (エス)

製品解説

近年のカスタムシーンは、多種多様なジャンルがあります。その中で一つの傾向として『昔存在した』、または『ありそう』なデザインが斬新さを感じさせています。

長い歴史の中で、その時代性はバラバラですが流行は形を変え繰り返します。

そういった背景の中で SSR は 2000 年にデビューしたミネルバを最新の技術で武装し復活しました。その刺激的なデザインは今のホイールにないインパクトと存在感を与えます。

関連市場傾向

アフターアルミホイール市場は様々なデザインの製品がありますが、ホイールを機能パーツと捉えた場合は『どれだけ軽く仕上げられるか』がメーカーとしての腕の見せ所だと思います。

我々 SSR は軽量を一つの武器にしているので、細く美しい見た目にこだわっています。その上で、当然のことですが確かな強度と剛性を持つホイールを提供すべく、業界団体「NAPAC・JAWA 事業部」が推奨する強度試験を上回る基準を採用しています。

《タナベ談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY

クリック⇒ <http://www.tws-forged.com/>

Model : **TWS Exlete 118F
Sport Monoblock**

製品解説

既存モデルの TWS Exlete 118F Monoblock をスポーティーモデルとしてブラッシュアップした 2018 年の新商品モデルが TWS Exlete 118F Sport Monoblock です。

「ローレット加工」「バックスプリング加工」によりアップした走行性能に加え、新色のグラファイトブラックに「ロゴマシニング加工」と「フランジカット加工」を施した、ドレスアップ性を兼ね備える贅沢づくりの Premium Sport Model です。

関連市場傾向

昨今のアルミホイールの主流デザインは 5 本ツインスポークデザインですが、TWS はあえてフィンデザインを提案していきます。

レース場で本気で走行するのであれば 5 本ツインスポークですが、スポーツセダンで街中をスポーティーに走りこなす、更に個性を出すのであれば、高級感も纏えるフィンデザインを見直してみるのもお洒落です。

《TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY 談》

トレンド情報 2018 アルミホイール



Maker : **PIAA (株)**

クリック⇒ <http://www.piaa.co.jp>

Model : **PIAA BRIGHT SPEED**

製品解説

「PIAA ブライトスピード」は、ブライتكローム（SMC）の輝きで、煌めく高級感を演出！

シンプルでスポーティーな8本スポークゆえに、幅広いKカーに飽きが来ないドレスアップをご提案します。

ドレスアップホイールのスタンダードである適度なアウターリムの存在感とワンランクアップ商材の演出に欠かせないピアスポルトも「ヒカリモノ」だからこそのディテールとなっています。「ヒカリモノ」を愛するユーザーに是非！

関連市場傾向

近年、アフターホイールのカラーはブラポリ、マットブラックやグロスブラックなど、「黒系」が増加。そのセグメントはある意味で存在感を確立したと言っても良いでしょう。

しかしながら、純粋な「ヒカリモノ」を愛するKカーユーザーも少なくないことも事実です。コストアップになる「ヒカリモノ」の生産を敬遠するメーカーが多い中、価格以上の装着時の際立つ煌めき感を得られる唯一の色、「ヒカリモノ」を是非おすすめ下さい！

《PIAA 談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : **BBS ジャパン (株)**

クリック⇒ www.bbs-japan.co.jp/

Model : **RE-X**

製品解説

「RE-X」は力強さと美しさを兼ね備えた、新時代のSUVにふさわしいモダンなスタイルのアルミ鍛造 1 ピースホイールです。

四角形で構成されたディスク面にさりげなく Y 字をしのばせ、どこか余裕さえ感じられる先進のデザインに。リムの上部まで伸びたスポークは色のコントラストを生み、大径イメージをより一層際立たせています。

関連市場傾向

ホイール業界全体として、大口径化が進んでいますが、技術の進歩により軽量化も可能となりました。大口径ホイールを履きたいが、車重が重くなるのは嫌だという市場の声に応えられるホイールが求められています。

また BBS ジャパンのラインナップでは、定番のシルバー色よりも、ダーク系の色が人気です。手軽にカスタマイズできるホイールで、個性を出そうという遊び心から、ダイヤモンドブラックを選ばれていると感じられます。

《BBS ジャパン談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : **(株) ファブレスジャパン**

クリック➡ <http://www.fabulous.co.jp/>

Model : **BARONE XR-6**

製品解説

洗練された美しいクラシカルなデザインと、現代の技術による高い完成度を併せ持つ「BARONE XR-6（ヴァローネ XR6）」

本物だけが持ちうる造形は自然体でありながら堂々たる存在を主張しています。

2ピース／ステップリムのサイズは 17 ～ 19 インチ、2ピース／リバースリムのサイズは 16 ～ 18 インチ、1ピースのサイズは 16、17 インチとなっています。

関連市場傾向

アルミホイールジャンルは自動車の多様化に伴い様々なデザインのホイールが各メーカーより発売されております。

その中でも、カスタム年齢層の高齢化により 70 年後半に流行したネオクラシックデザインホイールが注目されており、2018 年も大きなブームとなりそうです。

《ファブレスジャパン談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : マルカサービス (株)

クリック⇒ <https://www.marukaservice.com>

Model : RMP 028F
(アールエムピーゼロニハチエフ)

製品解説

オーセンティックな 2 × 8 クロススポークスタイルの「028F」は、デザイントレンドの主流であるメッシュスタイルへの RMP 流アプローチ。

サイズごとに専用設計されたこだわりのコーンケープ断面、高い切削技術が要求されるハイパーメタルコート+ミラーカットによる超光輝調仕上げ。特徴的なフランジ手前でつけられたスポークの段差は剛性と軽量を両立させるためのデザインフィニッシュ。全てを高次元で融合したアイテムです。

関連市場傾向

ドレスアップホイールのデザイントレンドとしては、Y 字型スポークで構成されていく 2 × 5、2 × 7、2 × 8、2 × 9 といったクロススポークタイプのデザインが多く見受けられます。

また、純正装着サイズの大型化にともない 20 インチを越えるような大口径ホイールのマーケットも広がっているように思われます。

《マルカサービス談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : 横浜ゴム (株)

クリック⇒ <http://www.yokohamawheel.jp/>

**Model : ADVAN Racing RG-D2
for HIACE**

製品解説

「ADVAN Racing」ブランドの
PCD139.7 の 6 穴ホイールの突然
の登場です。

ハイエース市場に押されての開
発ではなく、ADVAN 系チューナ
のサービスカーであるハイエ
ース用に、ADVAN ホイールの設定
がないことに強い不満との声に応
え、開発しました。

6 穴と 6 本スポークは相性が良
く、一昨年発売した RG-D2 のス
テップ形状の光沢リムも、ハイ
エースにはじっくり馴染むデザイ
ンです。

関連市場傾向

ハイエースのアフターパーツ市場は数多くの商
品が流通しており、アルミホイールも 15 インチ～
20 インチ以上、各社が多様化したデザインを発売
されています。

ハイエース市場に本格参入ではなく、チューニン
グ系サービスカーたるハイエース用ホイールの展開
であり、大口径化したスタイリッシュなサイズでは
なくサービスカー故の荷物が積載出来る実践サイズ
の展開が必要であると考えています。

《横浜ゴム談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : レアマイスター

クリック⇒ <http://www.lehrmeister.jp/>

Model : プレミックス ドルチェ 3 × 5

製品解説

「プレミックス ドルチェ 3 × 5」は、機能性も重視しフローフォーミング製法を採用、SUVをはじめ新型LSなど幅広い車種に対応し、トヨタ/レクサスの純正空気圧センサーが装着可能となっています。

また5本スポークが3本に枝分かれし、ライトスポークはセンターサークルより鋭角的に立ち上げてから天面を切削し、センタースポークは左右にひねりを入れ、天面をオフセットさせて切削し、レフトスポークのリムエンドを落とし込み切削を施さないことで立体感と躍動感を表現しています。

関連市場傾向

トレンドは『ツイスト (ひねり)』と『リバイバル』に注目、ツイストは単純にひねりを加えるだけではなく細部までこだわり計算され、ひねる方向も複雑でより立体感を強調する傾向にあります。

また、数十年前に一時代を築いたホイールが現代の最新技術で新たにリメイクされ話題を呼んでいます。年々ユーザーのニーズは多様になり、そのニーズを的確に捉え、『欲しい』と思わせる商品や付加価値の高い商品の開発が必要となります。

《レアマイスター談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) レイズ

クリック⇒ <https://www.rayswheels.co.jp/>

Model : ボルクレーシング G16

製品解説

ボルクレーシングには、TE37 に代表されるレーシングシリーズ、G25 で好評を頂いている G シリーズをラインアップ。

「G シリーズ」の G とはレーシングシリーズから卒業の Graduate の G、常に G を感じる感性の意。その G シリーズ最新作として、この度「G16」がデビュー。高剛性なカタチは、レーシングホイールを開発・生産できる世界でも稀有なレイズならではの。高度な鍛造技術、デザイン金型工法で作られます。

関連市場傾向

「Made in Japan」だから良いのではなく、品質・デザイン・趣向性を 100% 表現できることがホイールには求められていると考えます。

さらに唯一、高機能を備えることで高付加価値を得ることとなり、価格ではない「これが欲しい」と言わしめる内容が大切になってきています。それには常に、新技術・新工法・新表面処理仕上げなど、開発・研究が必要と考えます。

《レイズ談》

トレンド情報 2018

アルミホイール



Maker : (株) ワーク

クリック⇒ <https://www.work-wheels.co.jp/>

Model : **SCHWERT QUELL**
(シュヴァートクヴェル)

製品解説

「シュヴァートクヴェル」は 19 インチから 21 インチをカバーする 2 ピース構造の 2018 新作アルミホイールです。

シュヴァートクヴェルの最大の特徴は、超立体的且つ滑らかなデザインを主体とし、鋳造でしか制作する事はできないシルエットを実現したことです。しかも鋳造でしか成し得ることができない流麗なデザインに最も映えるカラーリングとして、新作シルキーリッチシルバーを開発しました。

関連市場傾向

大口径ホイールはワンピース市場が拡大が続いている中、カスタムユーザーはより自己主張できる物選びを画策していますので、商品の仕様も多様化でできることが重要になっています。

標準仕様での優れたイメージと、一新するようなカスタムイメージが設定されることで、付加価値の高い商品が今後強く望まれていくと思われます。
《ワーク談》

トレンド情報 2018 アルミホイール



Maker : (株) ガレージ・ベリー

クリック⇒ <http://vary.co.jp/>

Model : **S660 用メーターフード**
(FRP 製 / 一部カーボン+FRP 製)

製品解説

「S660 用メーターフード」は、追加メーター用に開発したメーターフードです。

穴の径は 60 パイ、センター位置での取り付けのため、追加メーターの視認性は抜群です。

なお、オプションのセンターディスプレイを装着されている車両は、センターディスプレイの取り外し後に、本製品の装着となります。3 月発売予定です。

関連市場傾向

外装、内装共にデザインだけではなく機能も重視される傾向にあるので、車種に合わせた専用設計で、且つ装着効果のある製品を開発しております。

《ガレージ・ベリー談》

トレンド情報 2018

インテリア



Maker : **ブリッド (株)**

クリック➡ <http://bride-jp.com>

Model : **EUROSTER II**
BettySmith

製品解説

日本製デニムを使用したシートが限定生産で登場！岡山県倉敷市児島のジーンズメーカー「ベティスミス」とコラボレーションした特別なシートで、カラーはインディゴブルーとブリーチブルーの2色。

ベースモデルのユーロスターは、スポーツカーからバンまで幅広く取付可能なロングドライブ対応モデルで、アームレストやシートヒーターにも対応します。

全国の Bried マイスターショップで4月1日より先行発売です！

関連市場傾向

人と同じではつまらないー。

そう思うユーザーのために、今までにない個性的なアイテムをお届けできればとの思いから、同じくメイド・イン・ジャパンにこだわるジーンズメーカーの「ベティスミス社」(岡山県倉敷市)とコラボレーションすることで、全く新しいカジュアルスタイルのシートが完成しました。

《ブリッド談》

トレンド情報 2018

インテリア



Maker : **ブリッド (株)**

クリック⇒ <http://bride-jp.com>

Model : **ZAOU**

製品解説

究極のプロドライバーを支える、トラック専用シートが新登場！

トラック専用設計の「ZAOU」は、乗り降りし易いフルフラットな座面と適度なホールド性を持つ背もたれの形状。表皮には高級感のあるスウェード調の生地とカーボン調 PVC 素材で耐久性も高めています。

別売のアームレストを装着可能で、プロのトラックドライバーにぜひ使用していただきたいシートです。

関連市場傾向

トラック運送業界ではドライバー不足が深刻な問題となっており、過酷な労働環境がその原因のひとつと考えられています。

BRIDE では、環境改善の方法としてシートの交換をお勧めします。

全国の物流を支えるトラックドライバーの労働環境改善が、運送業界の問題解決の支援につながると考えています。

《ブリッド談》

トレンド情報 2018

インテリア



Maker : (株) ワークスベル

クリック⇒ <http://www.worksbell.co.jp/>

**Model : #08/ 86&BRZ 純正ステア
リングスイッチ移植ステー**

製品解説

トヨタ 86 及びスバル BRZ の純正ステアリングスイッチを、「MOMO」や「ナルディ」等の社外ステアリングに交換する際に移植することが出来る専用のステーキットです。

純正のステアリングスイッチをこのステーに移植することで、社外ステアリングに交換してもステアリングスイッチを純正同様に使用することが可能となります。

様々なステアリングのスポーク形状や大きさに対応するためにスイッチ部はスライド可動調整式を採用しました。製品は特許出願中です。

関連市場傾向

最近の純正ステアリングにはエアバッグの他にオーディオ類や安全補助機能類等の操作スイッチが標準装備されるようになってきており、サーキット走行をする車両でも純正ステアリングのまま走行している人が多く見受けられるようになりました。

社外ステアリングに交換したいが純正ステアリングのスイッチ機能をなくしたくないというユーザーは多いようで、当社ではそうした要望に応える製品を今回開発しました。

《ワークスベル談》

トレンド情報 2018

インテリア



Maker : (株) オクヤマ

クリック⇒ <http://www.carbing.co.jp/>

**Model : スイフトスポーツ (ZC33S)
ストラットタワーバー / フロント /
タイプ D**

製品解説

「スイフトスポーツ (ZC33S) ストラットタワーバー / フロント / タイプ D」は、左右のサスペンション上部取付け部を結び、ストラットハウスの「倒れ現象」を抑制することでサスペンションの挙動を安定させます。これにより、コーナリング時発生するボディのねじれを抑えハンドリングやスタビリティが向上します。

左右を結ぶシャフトを取付ベース部と2本のボルトで固定することで整備性と高剛性を両立致しました。材質は、スチール製とアルミ製のタイプをラインナップ。

関連市場傾向

ボディ補強パーツのトレンドとしては、一昔前は、サーキット走行やワインディングの走行に特化したアフターパーツでしたが、現在は、一般車にも装着率がとても高くなっています。

装着することにより、コーナリング時のボディのネジレがなくなり、コーナリングが安定することは勿論、直進安定性も向上します。

ワインディングの走行だけでなく、高速道路の直進安定性が向上する事により、ロングドライブ時の疲労感も軽減します。

《オクヤマ談》

トレンド情報 2018 車体剛性パーツ



Maker : (株) トムス

クリック➡ <http://www.tomsracing.co.jp/>

Model : レクサス LC エアロパーツ

製品解説

最新のスーパー GT の空力テクノロジーをレクサスのフラッグシップクーペ「レクサス LC」にフィードバック。

サーキットテストで高ダウンフォースと低ドラッグの両立を実証したリアルエアロパーツです。

関連市場傾向

カスタマイズの第一歩としてエアロパーツは完全に定着しました。

それは 86 からレクサスのハイエンドモデルまで同様です。

中でも C-HR は、エアロパーツを筆頭に各パーツが好調。過去に業界を席巻した 30プリウスユーザーが移行した印象があり、カスタマイズ指向が強く感じられるモデルと言えます。

《トムス談》

トレンド情報 2018

エアロパーツ



Maker : (株) ケミテック

クリック⇒ <http://www.kemitec.jp>

Model : PG55 LIMITED

製品解説

「PG55 LIMITED」(4L 入、品番・FH-622、価格・税別 7500 円) は、トヨタ 86・スバル BRZ のエンジン設計水温約 90℃に設計された専用冷却水です。この水温領域で走行することでパワー効率がよく、安定した走行ができるよう設計しています。

また、設定水温を可能な限り維持できるよう様々なシーンを想定し、ストリート走行からサーキット走行まで対応する専用冷却水でもあります。なお交換時はフラッシング水交換を行ってからご使用下さい。

関連市場傾向

高付加価値の専用冷却水（クーラント）のトレンドのひとつは、環境に優しい溶剤「プロピングリコール」を高濃度（70%）で使用し、水温コントロールと水温レスポンスの向上を図り、エンジン回転時の熱吸収性能、放熱性能、アクセルをゆるめた時に安定した水温を実現することです。

またストリート走行からサーキット走行まで対応する幅広い性能レンジを持つタイプも、一つのジャンルを形成しています。

《ケミテック談》

トレンド情報 2018 クーリングパーツ



Maker : (株) 東名パワード

クリック⇒ <http://www.tomei-p.co.jp/>

Model : **TOMEI RB26DETT**
フルキャストエキゾースト
マニホールド

製品解説

「TOMEI RB26DETT フルキャストエキゾーストマニホールドは、溶接をしない SUS304 一体成型で耐久性を向上しました。

従来モデルはパイプごとに成型することで耐久性を向上させてきましたが、今回のモデルチェンジでは一切溶接がない完全一体成型で、これまで以上のハードな使用にも対応します。

また、ポン付けタービン用として限られたスペースの中で最適なポート形状と最大限の容量を確保した他、取り付けに必要なガスケット類を付属しました。

関連市場傾向

年初めのオークション価格が話題になったスカイライン GT-R。サーキット走行会やイベントでもよく目にする、まだまだ現役のスポーツカーです。

この車のエキゾーストパーツも熟成しきったと思われるかもしれませんが、これからも進化していきます。

ユーザーの色々な要望に応えるよう日々開発に取り組んでいきますので、今年もご期待ください。

《東名パワード談》

トレンド情報 2018
エキゾースト



Maker : (株) トラスト

クリック⇒ www.trust-power.com

**Model : GReddy コンフォートスポーツ GT-S
スズキスイフトスポーツ (ZC33S)
Ver.1 センターパイプ付**

製品解説

センターパイプまで交換することでハイパフォーマンスを迫っています。

製品の高級感と耐久性を考慮して材質にオールステンレス（バフ仕上げ）を使用し、テールには美しい焼き色でアピール度も高いチタン風テールを採用しています。

また、リアパイプ部の GReddy ロゴのレーザー刻印でリヤビューをドレスアップ。パワーを重視しながら音質に拘り、こもり温を排除した快適で上質なサウンドです。

関連市場傾向

エキゾースト系の特にスポーツマフラーは、センターパイプまで交換する性能アップを求めるユーザーが増えています。

さらにファッション性も重要な要素で、年々ユーザーからの要望も高くなってきています。

《トラスト談》

トレンド情報 2018

エキゾースト



Maker : 藤壺技研工業 (株)

クリック➡ <https://www.fujitsubo.co.jp/>

Model : VVV (バイダブリュ)

製品解説

「VVV (バイダブリュ)」はパワーやサウンドをリアルタイムにコントロールすることで、運転の楽しみをより深く広げてくれる新感覚のスポーツマフラーです。

車種に応じた専用設計マフラーとしてバルブシステムを搭載するため、操作方法は設定車種毎に設定されますが、専用のコントローラーやスマホアプリで簡単にバルブの切り替えが可能です。

アプリ版では任意速度に応じた「AUTO モード」も搭載予定。

関連市場傾向

近年のエキゾーストシステムは非常にレベルが高く、国産・輸入車を問わず純正マフラーにバルブシステムを採用している車両が多いです。アフターパーツとしてのスポーツマフラーでも、バルブシステムの需要が増えてきています。

マフラーにバルブを搭載することで、サウンドや出力特性の変化が付けられ、車内の快適化やドライブの楽しみがさらに広がります。

バルブ搭載は今後のエキゾーストパーツのキーポイントの 1 つと言えます。

《藤壺技研工業談》

トレンド情報 2018 エキゾースト



Maker：小倉クラッチ（株）

クリック➡ www.oguraclutch.co.jp/

**Model：日産マーチ NISMO S・
ノート NISMO S用
メタルシングルクラッチ**

製品解説

日産マーチ NISMO S・ノート NISMO S 用のメタルシングルクラッチ（定価 118,000 円、税別）は、316Nm という高トルク対応ながら、メリハリのある扱い易いクラッチペダルフィーリングを実現しました。

クラッチカバーやプレッシャープレートを開発し、軽量フライホイールをセットにすることで、ダイレクトなフィーリングでありながらも、ドライバーの意のままに操ることができる、本格的な軽量スポーツクラッチです。

関連市場傾向

強化クラッチ市場では、「乗りやすいもの」という需要が多いですが、一部のサーキットユーザーからは、「より軽く」という要望もあります。

当社では、1 車種に対し、複数のクラッチをラインナップすることで、ユーザーの使用用途に合わせたラインナップ構成を行っています。

最近では、小排気量のコンパクトスポーツで本格的にサーキットを楽しむ人も増えているので、クラッチもそういったユーザーに向けて開発を行っています。

《小倉クラッチ談》

トレンド情報 2018 駆動系パーツ



Maker : (株) アクレ

クリック⇒ <http://www.acre.co.jp/>

Model : 4 ポットモノブロック
キャリパー

製品解説

「4 ポットモノブロックキャリパー」は、ストリートでの性能向上を狙い開発しました。

17 インチホイールに対応し、ファッション性にも優れ、トヨタ 86、スバル BRZ では純正ホイールにも対応しています。

またモノブロック構造のキャリパーはメンテナンス性に優れるとともに、ファッション性にも貢献しています。

スポーツ走行の基本である「走る・止まる・曲がる」を正確に行うためのアイテムです！

関連市場傾向

スポーツブレーキ業界は今までブレーキパッドの性能追求が主流でしたが、近年はブレーキキャリパーに注目が集まり、急ピッチでの開発を迫られています。

当社では現在、鋳造モノブロックキャリパーを販売しておりますが、ストリート用鋳造とサーキット用鋳造といったように、用途別の作り分けが求められており、開発に取り組んでおります。

《アクレ談》

トレンド情報 2018 ブレーキパーツ



Maker : (株) エンドレスアドバンス

クリック⇒ <http://www.endless-sport.co.jp/>

Model : 電子パーキング専用インチアップキット (仮称)

製品解説

「電子パーキング専用インチアップキット (仮) は、パーキングブレーキを作動させるためのモーター部分を生かすため、純正キャリパーの一部を活用し、さらに 2 ピースタイプの大径ブレーキローターを付属させることで制動力の向上を狙った、エンドレス初の新しい構造のインチアップキットです。

設定車種はレヴォーグを皮切りに、他電子パーキング採用車を設定予定です。

関連市場傾向

アフターパーツ市場での対向ブレーキキャリパーキットの人気は未だ健在です。

その背景として主に 制動力の強化 とドレスアップを目的として求められております。

対向ブレーキキャリパーに換装する際、干渉する場合はホイールも換装しなければなりません。そういった情報も市場ではかなり浸透している状態です。認知度が高くなっている証拠であると考えいたします。

《エンドレスアドバンス談》

トレンド情報 2018 ブレーキパーツ



Maker : (株) シルクロード

クリック⇒ <http://www.silkroad-jp.com/>

**Model : ビッグローターキット
スズキジムニー JB23
専用 (意匠登録出願済み)**

製品解説

「ビッグローターキット スズキジムニー JB23 専用」は、純正ローターの直径を 1 インチ (2.54cm) 大径にすることにより、制動力を高めるブレーキパーツです。

純正アルミホイールサイズに適合するため、ブレーキに合わせてのホイールサイズ変更は不要です。また純正キャリパーをそのまま使うため、ブレーキホースやブレーキパッド類の変更も不要です。従来のブレーキ強化パーツよりも、コストと装着負担が軽減できます。予定販売価格は ¥ 39,800- (税別)、車検対応品。

関連市場傾向

昨今の SUV ブームにより、ジムニーに対しても機能面での強化を要望する流れが出てきています。重量物が絡むキャンピングなどのレジャー使用、ドレスアップのための大径ホイール装着、サーキットユースなど、通常よりも制動力が不足しやすい状況が増え、安全対策を求める声が高まってきています。

そうした中、当社では今回、金額面、装着面での負担が少ない制動力アップの方法の提案を模索し、多くのユーザーが購入しやすい商品の開発を実現しました。

《シルクロード談》

トレンド情報 2018 ブレーキパーツ



Maker : (株) ディクセル

クリック⇒ <http://www.dixcel.co.jp/>

Model : DIXCEL ULTRA RACING

製品解説

車検交換用の DOT5.1、ストリートから走行会まで OK の 328Racing に続き、レーシング専用の「DIXCEL ULTRA RACING」をリリースします。

高温時でもタッチの変化率が少なく、安定したブレーキタッチを維持。特に耐久レースに最適です。ABS との相性も良く、コーナーでのブレーキング競争でも安心してライバルを出し抜くことができます。

ドライバビリティに優れているので、その恩恵はタイム短縮に貢献します。

関連市場傾向

「ブランパン GT」のように GT3 /GT4 マシンによるコンペティションは高度な戦いになっています。

その戦いの中で、安定したブレーキングはドライバーに安心をもたらすとともに、レースへの集中力を維持するのに必須な条件。ブレーキパッドの選定はもちろんのこと、ブレーキフルード選びにも気をつけたいポイントです。

《ディクセル談》

トレンド情報 2018 ブレーキパーツ



Maker : **アサヒライズ (株)**

クリック⇒ <http://www.fet-japan.co.jp>

Model : **CATZ LED Reflex
FOG コンバージョンキット**

製品解説

「CATZ LED リフレクス フォグ コンバージョンキット」は従来の冷却フィンの全長を短くすることにより、軽自動車を含む広範囲な車両への装着を可能としました。

また弊社製品の「LED リフレクス ヘッドライト コンバージョンキット」と同じ LED を使用することでヘッドライトとの照射色を合わせることができます。

さらに付属のイエローキャップを装着することによりイエローの光となり、用途に応じ、ホワイトとイエローの使い分けが可能となっています。

関連市場傾向

昨今、LED バルブは純正での装着率が高くなっており、ハロゲン車でも LED の装着の要望を多くいただいております。

純正装着が開始して 10 年程度経過しておりますが、登録台数比率的にはまだ数パーセント程度で、ハロゲンバルブを使用した車両が大半です。

手軽で費用負担も軽く、愛車のイメージチェンジや明るくなることによる安全性向上等により、今後さらなるトレンドアイテムとなっていくと思われます。

《アサヒライズ談》

トレンド情報 2018

ライティング



Maker : (株) コラント ヴァレンティ事業部

クリック⇒ <http://valentijapan.com>

Model : **JEWEL LED TAIL
LAMP REVO**

製品解説

ヴァレンティオリジナルデザインのフル LED テールランプ「REVO」シリーズは、以前のシリーズよりハイパフォーマンスな位置付けとなり、今後新車種もリリース予定です。

一部高級車種では、法改正により日本国内でも保安基準適合となった流れるウインカー「フローアクションウインカー」を採用。また LED ライトバーによるスモールランプ点灯が幻想的なリアビューを演出し、後続車の目を釘付けにします。ウインカーハイフラッシュ制御抵抗をテール本体に内蔵。E マーク取得済み、保安基準適合製品です。

関連市場傾向

テールランプジャンルは最近、内側テールランプから流れるウインカーを採用したアイテムが注目を浴びています。法改正により、自動車メーカーの一部上級グレードに純正採用され、テールランプに多機能、デザイン、ファッション性を求める向きが強まっている現れの一つと思われます。

重要保安部品となるため、アフターメーカーのノウハウが必要不可欠です。またヘッドフォグランプジャンルは最近、LED を採用したアイテムが注目を浴びています。一部の自動車、バイクで純正採用され、省エネ化を求める向きが強まっています。

《コラント ヴァレンティ事業部談》

トレンド情報 2018 ライティング

オートアフターマーケット業界 推進活動



**「8月2日はオートパーツの日」は
カーカスタマイズライフをより楽しくする
オートパーツ点検交換の日です。**

**オートパーツを定期交換する際に、
走りの性能アップや乗り心地の向上、
個性あるスタイリングをかなえる
NAPAC 会員の「カスタマイズパーツ」を
選んでみよう！**

**業界基準をクリアした安心安全な
NAPAC 会員パーツに交換することで、
ノーマルとは違った楽しさが
得られるはずです。**

一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会 (NAPAC)

